令和6年度 全国学力・学習状況調査結果報告

4月18日に実施された全国学力・学習状況調査結果資料より得られる、本校生徒の結果及び概要を報告します。この調査は、学力の一部を調査するもので、この調査結果を持って生徒の学力全体を評価するものではありません。あくまで、学習指導や学習状況の改善に役立てることが目的です。

1 学力調査の結果から

【国語】

正答率の平均は、兵庫県や全国の値と比べるとほぼ同程度でした。「思考力・判断力・表現力」についての問いで、選択式で解答を選ぶ問題については、兵庫県や全国の値と比べると若干高くなっていますが、記述式で自分の考えを書き、説明や表現することを若干苦手とし、無答率も高くなっている傾向があります。

個別に問題を見ていくと、とくに文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することや短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉えることなどは、兵庫県や全国の値より高く、得意としていることが分かります。

【数学】

正答率の平均は、兵庫県と全国の値と比べると若干下回っていました。「思考・判断力・表現力」についての問いで、記述式解答をする問題では正答率が下回っており、無回答も多いという傾向が見られます。説明をしたり、証明をしたりする問いを苦手としています。一方で、「知識・技能」についての問いでは、全国の値とほぼ同等となっています。

個別に問題を見ていくと、とくに「数と式」や「関数」に関する問題でも、兵庫県や全国の値と比べると、正答率がやや低いです。

2 生徒質問紙の回答結果から

生活面について問う質問では、「人が困っているときは、進んで助けていますか。」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の問いでは、人が困っていたら進んで助ける割合が高く、ほとんどの生徒がいじめは許されないことだと強く認識していることが分かります。そして、「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の問いでは、約8割の生徒が「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答しています。

また、規則正しい生活を心がけている生徒がほとんどであることが分かります。タブレットやPC、スマホの利用については、各家庭で決めた使い方のルールを守っており、長時間のSNSや動画等の利用もほとんどなく、2～3時間程度です。これは、兵庫県や全国の割合と比べても差異はありません。また、平日にインターネットを活用して勉強をしている時間は平均的ですが、休日にインターネットを活用して勉強している時間は若干少ないという結果になっています。

学習面について問う質問では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の問いに約8割の生徒が、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答しており、対話的な学習による考えの深まりを感じていると思われる。一方で、学習した内容について、分かったことやよく分からないことを見直し、次の学習につなげたり、学んだことを実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることを苦手としているといえます。

国語に対する意識については、国語は好きで、大切であり授業の内容もよく分かると回答している生徒が多くいる一方で、文章で自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えたりすることを若干苦手としているようです。

数学に対する意識については、どちらかという苦手意識がある生徒が多いという結果になっています。とくに別の解き方を考えたり、実生活の中で活用できないかなどを考えたりすることを苦手としているようです。

理科に対する意識については、自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることはあるものの、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたりすることを若干苦手としているようです。